公 営 企 業 常 任 委 員 会

平 成 2 1 年 3 月 1 1 日 (水 曜 日)

公 営 企 業 常 任 委 員 会

平成21年3月11日（水曜日）

付議事件

《付託議案》

- 議案第 8号 平成21年度旭市水道事業会計予算の議決について
議案第 9号 平成21年度旭市病院事業会計予算の議決について
議案第10号 平成21年度旭市国民宿舎事業会計予算の議決について
議案第16号 平成20年度旭市水道事業会計補正予算の議決について
議案第17号 平成20年度旭市病院事業会計補正予算の議決について
議案第18号 平成20年度旭市国民宿舎事業会計補正予算の議決について
議案第26号 旭市国民宿舎事業の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

出席委員（6名）

委員長	日 下 昭 治	副委員長	木 内 欽 市
委員	林 一 哉	委員	向 後 和 夫
委員	高 木 武 雄	委員	林 俊 介

欠席委員（1名）

委員 伊 藤 鐵

委員外出席者（1名）

議員 神 子 功

説明のため出席した者（18名）

副 市 長	鈴 木 正 美	病院事務部長	伊 藤 敬 典
水道課長	堀 川 茂 博	国民宿舎 支配人	野 口 國 男
病院技監	作 田 重	病院事務次長	石 鍋 秀 和

病院契約室長 太 田 信 春
病 院 再 整 備 室 長 鎚 木 友 孝
病院医事課長 加 藤 勝 治
そ の 他 担 当 員 7 名

病院経理課長 鈴 木 清 武
病院整備課長 永 嶋 英 和

事務局職員出席者

事 務 局 長 宮 本 英 一
主 査 穴 澤 昭 和

事務局次長 石 毛 健 一

開会 午前10時 0分

○委員長（日下昭治） おはようございます。

大変お忙しい中、ご苦労さまでございます。

ここで、委員会を開会する前に、あらかじめご了承願います。

この後、議会だより取材のため、職員が委員会室内の写真撮影を行いますので、ご了承願います。

なお、神子功議員より本委員会の傍聴したい旨の申し出があり、これを許可いたしましたので、ご了解をお願いいたします。

ただいまの出席委員は6名、委員会は成立いたしました。

それでは、公営企業常任委員会を開会いたします。

なお、伊藤鐵委員におかれましては、健康上の理由により欠席させていただきたいとのことでしたので、ご了解願いたいと思います。

また、市民より傍聴したい旨の申し出があり、これを許可いたしましたので、ご了解お願いいたします。

しばらく休憩します。委員の皆さんはそのままお待ちください。

休憩 午前10時 1分

(傍聴者入室)

再開 午前10時 1分

○委員長（日下昭治） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案説明のため、副市長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して、鈴木副市長よりごあいさつをお願いいたします。

○副市長（鈴木正美） おはようございます。

本日はご多忙の中、公営企業常任委員会ということで、委員の皆様には大変ご苦労さまでございます。

本日の委員会に執行部のほうからご審議をお願いいたします案件は、7件でございます。議案第8号から議案第10号までは平成21年度予算の議決に関するもので、議案第8号は水道

事業会計、議案第9号は病院事業会計、議案第10号は国民宿舎事業会計に関するものでございます。議案第16号から議案第18号につきましては、平成20年度の補正予算の議決の関係でございます。議案第16号は水道事業会計補正予算、議案第17号は病院事業会計補正予算、議案第18号は国民宿舎事業会計の補正予算の議決についてでございます。なお、議案第26号は旭市国民宿舎事業の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

以上、7件でございます。

執行部といたしましても、委員の皆様からのご質問に対しまして簡便に答弁するように努めてまいりますので、どうぞよろしくご審議のほどをお願いいたしまして、ごあいさついたします。

よろしく願いいたします。

○委員長（日下昭治） ありがとうございます。

ここで、鈴木副市長は所用のため退席をいたします。

しばらく休憩いたします。委員の皆様は、そのまま自席でお待ちください。

休憩 午前10時 3分

（副市長退席）

再開 午前10時 3分

○委員長（日下昭治） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の説明、質疑

○委員長（日下昭治） ただいまから本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る3月4日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案は、議案第8号、平成21年度旭市水道事業会計予算の議決について、議案第9号、平成21年度旭市病院事業会計予算の議決について、議案第10号、平成21年度旭市国民宿舎事業会計予算の議決について、議案第16号、平成20年度旭市水道事業会計補正予算の議決について、議案第17号、平成20年度旭市病院事業会計補正予算の議決について、議案第18号、平成20年度旭市国民宿舎事業会

計補正予算の議決について、議案第26号、旭市国民宿舎事業の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についての7議案であります。

これより付託議案の審査を行います。

初めに、議案第8号について、水道課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
水道課長。

○水道課長（堀川茂博） 特にございません。よろしくお願ひしたいと思います。

○委員長（日下昭治） 特にないようですので、質疑がありましたらお願いいたします。

林俊介委員。

○委員（林 俊介） 2点ほどお尋ねします。

1点目は、企業会計の当初予算の概要のほうからお願いします。

5ページでありますけれども、飯岡配水場用地購入費でございます。この件につきまして、何か聞くとところによりますと、地権者のほうから用地の売買について反対というような意見があったというふう聞いておりますけれども、その後、どのようになっているのか、お尋ねしたいと思います。

それから、もう一点。次の6ページですけれども、この配水管整備事業の中で、予定地の中に神宮寺地先のあれが組まれておりますけれども、これは具体的に場所、そして、いつごろ予定しているのか、お尋ねをしたいと思います。

以上でございます。

○委員長（日下昭治） 林俊介委員の質疑に対し、答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（堀川茂博） それでは、第1点目の飯岡の配水場の件でございますけれども、今のご質問の内容につきましては、現在、当初予算の審議中でもございますので、説明のほうは遠慮させていただきたいと思ひます。

ただ、飯岡の配水場につきましては予算上はですね、賃貸と売買の2つの方法が予算上に処置できるように、どちらでも対応できるような対応をさせていただきます。

それから、第2点目でございますけれども、神宮寺の配水管の布設でございますけれども、これは五差路の少し北側に点在した分譲住宅地等がございます。そこが、実は、水圧がもう低下しておりまして、水圧の解消とループ化を兼ねるものです。水圧と水質につきましては、水道のほうで保証しなければいけない事項ですので、それに基づいて水圧を解消するために、非常に水圧が下がっておりまして、そのために配水管の布設、ループ化等を行うものでござ

います。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（日下昭治） よろしいでしょうか。

ほかに何かございませんでしょうか。

高木委員。

○委員（高木武雄） それでは、2点ほどお伺いをいたします。

今、水道課のほうから健全化計画でございまして、利子の安い借り換えが1ページに出ていますけれども、繰上償還するとこれだけ安くなるという表なんですけれども、これで、繰上償還して、あと起債はどのくらい残っているのか。合計、どれくらいあるのかということ。それが第1点。

もう1点。減価償却の部分で、償却の種類がいろいろとあると思うのです。現在、埋設されている水道管、この耐用年数と、この表で見ると半分くらい償還しているんですけれども、まだ、かなりの耐用年数があると見込まれますが、どのくらいあるのか。

それと、もう1点。水道お客様センター業務委託についてでございますけれども、これが、今年から4,018万3,000円、計上されています。業務の内訳はある程度書いてありますけれども、この4,000万円の積算根拠はどの辺にあるのか、お伺いをいたします。

○委員長（日下昭治） 高木委員の質疑に対して答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（堀川茂博） 初めに、健全化計画のご質問がございましたけれども、これにつきましては、議案第16号で説明を加えたいと思いますので、平成21年度予算では、ページで行きますと3ページに少し入っております。こちらにつきましては、議案第16号のほうで詳細説明を行いますので、よろしくお願いいたしますと思います。

それから、2番目の減価償却費でございますけれども、こちらにつきましても、やはり議案第16号で説明をさせていただきたいと思います。

それから、3点目のお客様センターでございます。こちらにつきましては積算の根拠ということでございますけれども、これは過去のデータを、例えば、申し込み、あるいは直接支払い、それから、去年の10月からコンビニ収納も始めてございます。これにつきましては、月に約1,000件のコンビニ収納が行われるようになりました。それら等、過去のデータを詳細に積算しまして金額を算定したものでございます。

見積書の内訳は結構細かくなりますけれども、例えば、積算の根拠としまして、人件費が

どれぐらいかかるのか、あるいは、人件費の法定福利費が幾らかかるとか、それから、退職給与の引当金がどれぐらいになるのか、あるいは、臨時もパートも雇いますので、何名ぐらいのパートが必要かとか、それから光熱費、それから図書印刷費、消耗費、運搬費、修繕費、保険料、それから租税公課、減価償却、被服費等々、積算に当たりましては詳細な積算をした上で予算を決定したものでございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（日下昭治） 高木委員。

○委員（高木武雄） 引き続きお願いいたします。

1点、2点目は次の議案第16号でやるということでございますから、それはいいのですけれども、業務委託の件でございますが、これは経費を節減する意味もあるし、サービス向上をするから経費もかかるというような意味もあると思いますけれども、4人減らした分より経費が600万円ほど上がっているように感じるんですけれども、なぜそのようになるか。それは、給料表を添付されているそのマイナス分だけ足してみますとこの金額にならない。それはならなくてもいいんですけれども、新しい仕事がふえたから経費がかかったというのだと思いますけれども、その辺をもう一度お願いをするのと同時に、それから、委託先、委託方法、委託業者が決まっているのか、これから決めるのか、その辺をお伺いいたします。

○委員長（日下昭治） 高木委員の質疑に対して答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（堀川茂博） 実際には、削減額としては400万円弱、委託したほうが経費が節減できます。

それから、委託先と方法ですけれども、委託先につきましては、準備行為に基づきまして、既に業者が決まっております。4月1日から実施することになりますので、事前に準備行為を行いまして、さらにはお客様センターも設置いたしました。これは、旭市のほうから委託料は払いませんけれども、業者のほうも準備行為として、市内から社員も4名ほど募集をいたしまして、市内の4名の方が就職も決まっている。ただし、それらの費用については、全部準備行為として業者持ちとなっております。

委託先につきましては、予算審議上ですので、決まっておりますけれどもまだ発表しておりませんので、業者は決まっているということだけお伝えしたいと思います。それでよろしいでしょうか。

○委員長（日下昭治） 高木委員。

○委員（高木武雄）　そういう事情であれば、やむを得ないでしょう。

それで、9ページの給与明細書なんですけれども、ここで4人減ということでかなり減額されています。それと委託した金額を比べると、委託したほうが高くなるんですけれども、その辺はどのように差が出てくるんでしょうか。

○委員長（日下昭治）　高木委員の質疑に対して答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（堀川茂博）　先ほど、私のほうから400万円ほど人件費を節約するという説明をいたしました。これはあくまでも平成19年度の職員の人件費の平均を出して比較したものでございまして、補足説明の際にも申し上げましたけれども、確かに高木委員おっしゃるとおり、新年度の予算上だけで見ますと少し高くなるというふうな数字となっておりますので、高木委員おっしゃるとおり、平成21年だけで見るとそういうふうになってしまいます。

冒頭の説明が足りませんでしたので、申しわけございませんでした。以上でよろしいでしょうか。

○委員長（日下昭治）　高木委員。

○委員（高木武雄）　わかったような、わからないような話ですけれども、とりあえず納得しますけれども、そうすると、これは4年間同じ金額、継続費で1億6,000万円でしたっけ、載ってましたよね。それで、その金額で今後上がる見通しがないのか、その年度、年度で委託金が変わっていくのか、その辺をお伺いします。

○委員長（日下昭治）　高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（堀川茂博）　これは、5年間の債務負担をお願いしまして行うものですので、5年間の間、年額の委託料は、端数は別といたして、全く同額となります。また、途中で値上げということは、現時点では全く考えておりません。

以上でございます。

○委員長（日下昭治）　ほかに質疑ございませんでしょうか。

（「なし」の声あり）

○委員長（日下昭治）　特にないようですので、議案第8号の質疑を終わります。

続いて、議案第9号について、病院より補足して説明がありましたらお願いいたします。

病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武）　それでは、議案第9号、平成21年度旭市病院事業会計予算につ

いての再度の補足説明を申し上げます。

予算書の7ページをお開きください。

予算実施計画でございます。収益的収入のうち1款1項1目入院収益、2目外来収益についてであります。積算に当たり、平成20年度の単価の伸びや、患者数の実績を考慮して計上いたしました。

次に、2項3目負担金交付金ですが、市の一般会計から繰り出される国からの地方交付税です。この予算額は、平成20年度の実績を見込み、それをもとにして計上したものであります。平成20年12月に総務省から通達がありまして、公立病院に関する財政措置の改正要綱により試算いたしますと、1億数千万ほどの増額が見込まれます。こちらについては、数字が決定次第、補正予算を計上する予定でございます。

次に、予算書の9ページをお開きください。

収益的支出、1款1項2目材料費のうち薬品費並びに診療材料費ですが、SPD、これは物流管理業務なんですけれども、これを導入する効果としまして削減を見込んだものでございます。

簡単ではございますが、以上で説明を終わります。

○委員長（日下昭治） 病院の説明は終わりました。

議案第9号について、質疑がありましたらお願いいたします。

委員のほう質疑ございませんでしょうか。

木内委員。

○委員（木内欽市） 41ページの看護師の奨学金が出ておりますが、1年生60人、2年生59人、これは1人おやめになったんじゃないかなと思いますけれども、3年生は44人ですね。4人多く、やめるのを想定してなんだろうが、予算とは直接関係ないかもわかりませんが、本会議でも7対1看護にあと60人ぐらい足りないとおっしゃっていたのかな、聞き違えてなければ。今年、40人採用して、あと60人。看護師対策は大変だと思うんですが、今回の試験では何人ぐらい学校に入られたのか、ちょっとお尋ねしたいんですが、わかりますか。

○委員長（日下昭治） 木内委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院事務次長。

○病院事務次長（石鍋秀和） 申しわけありません。具体的なはっきりした数字はわかりませんが、定員が60人で、60人以上の応募がありまして、二次募集等も先週行いましたので、60の定数は達しております。

以上でございます。

○委員長（日下昭治） 木内委員。

○委員（木内欽市） ですから、やめるのを想定して多少多く採ってもいいのかなという気も私はするもので……。それと、あと看護師の定着枠に地元枠があるのかどうか、今はちょっとわからないですかね。もし、わかれば……。

○委員長（日下昭治） 木内委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院事務部長。

○病院事務部長（伊藤敬典） まず、定員に対して、やめるのを見越して少し多目に採ったらどうだというお話もございましたが、これは多少は採ってはいるんですが、ただ、余り採り過ぎますと認可上の文科省のほうに問題がありましてですね、あまり採るとまた問題がありますので、大体1割程度ぐらいの感じではないかと思えます。

それからもう一つ、地元枠、これは看護学校の各学校を指定校として幾つか、20ちょっとぐらいの高校を指定しているんですが、最近はなかなかその指定枠の数ほど集まってこないという状況であります。

それから、ちょっとこれはご質問と関係ないんですが、今の看護学校の状況を、実は昨日看護学校の副校長の先生に聞いたんですが、大分、今、就職難で、結構質の高い学生さんが来ている。その原因は、奨学金が非常に旭中央病院の看護学校は充実をしているらしいんですね。そんなことがあって、非常に質の高い学生が、今回、応募してきているということを知りました。

以上でございます。

○委員長（日下昭治） 木内委員。

○委員（木内欽市） 今年は大分利益を増やしていただいて、大変ご苦労さまでございました。

それとあと、7対1看護が実施されれば6億何千万かまた増益になるというような話なので、ぜひ看護師対策、そういった意味で地元枠、1割程度、文科省の問題もあるでしょうが、最低何年かは中央病院に定着してくれるわけです。そうすると、今2年生が卒業するときは今より20人ずつ卒業生が増えるわけですから、2年間で40人増えるということで、給料も新卒の人だと安いでしょうから、ぜひそういった面でということでもよろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございました。

○委員長（日下昭治） 高木委員。

○委員（高木武雄） それでは、一般質問や議案質疑でもいろいろ問題になっていました派遣

の問題で、ちょっとメモをとりそこなったり、聞き漏らしたことがあるので、かなり重複するかと思いますが、一、二点、質問いたします。

今現在、派遣で事業を行われていまして派遣に支払われる、きちっとした数字ではなくてもいいのですが、大まかな数字をお伺いいたしたいと思います。

それに伴って、新年度からは業務が臨時職員分と委託料と派遣に分かれるというような説明を聞きましたけれども、この部分でどのくらいのそれぞれの支払いが起きるのか。そして、前回派遣でやっていたときと、今回、その業務の形態を変えたことによって、その差がどのくらい出るのか、わかったら教えていただきたいと思います。

○委員長（日下昭治） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院総務課長補佐。

○病院総務課長補佐（片見武寿） 派遣と臨時職員ということによろしいでしょうか。

○委員長（日下昭治） じゃ、もう一度。

高木委員。

○委員（高木武雄） 平成20年ですか、派遣に支払われていた総額、それが今度派遣形態が変わって、臨時職員と委託、あるいは派遣の三つに分かれるということでしょうから、そのトータルだけでもいいし、そのうちの臨時職員がこのくらい、委託料がこのくらい、派遣料がこのくらいというように大まかでいいんですけども、そして、派遣でやっていたのと、今度は業務形態が変わったのでどれだけの差が出たか、その3点をお願いします。

○委員長（日下昭治） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院総務課長補佐。

○病院総務課長補佐（片見武寿） まず派遣の人件費でございますが、今現在、125名おります。平均の1人当たりの委託料なんですけれども、超勤等を加えまして約24万円です。それを臨時職員に変えることによって1人当たりの月額平均といたしまして約20万円と見込んでおります。そのほかに事務の経費とかそういったものがかかりますので、そちらのほうは金額としてはあらわしておりません。

次に、委託費なんですけど、SPDに関しては年間1億3,000万円で、あと給食のほうの配膳の委託なんですけれども、そちらのほうは約7,000万円です。

○委員長（日下昭治） 病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） 今数字がちょっと散らかっていたので、もう一度訂正させていただきます。

先ほどの派遣の関係のSPDの導入という中で、これが費用としては1億3,676万円であります。

それから給食業務の委託、これが9,672万円。それからトラッシュ搬送委託、これはダスキンヘルスケアなんですけれども、こちらで2,076万円。それから検査外注委託、これが540万円ということです。

委託費の今のを全体で見ますと、平成20年度は8億2,020万円の数字なんですけど、これが平成21年度は8億8,000万円ということで、5,980万円ほど対前年比増えるような形になります。

(発言する人あり)

○委員長(日下昭治) しばらく休憩します。

休憩 午前10時32分

再開 午前10時33分

○委員長(日下昭治) 休憩前に引き続き会議を開きます。

病院経理課長。

○病院経理課長(鈴木清武) こちらのいろいろな部門が、今回、派遣業務という形で縮小したり、臨時雇用という形で、一概には比較ができない形になっております。

ただそういった中で、このSPD業務というのが前年の後半からの大きな目玉になっておりまして、SPDによります人員削減効果としまして、派遣社員の削減で大体これが30人で、年間8,300万円ほど費用が減。ただ一方で、先ほどSPDの導入という形で、こちらが1億3,000万円ほどの費用が増加というような形で、8,300万円は減になるけれども、委託費のほうで逆に1億3,000万円ほどプラスになりますというような形になります。

ただ、何でこのSPDをやるかというのと、これは単純にこれだけじゃなくて、この予算の全体を見てもらいますと、先ほどの補足説明で申し上げましたけれども、こちらの診療材料費、こういったものが削減効果ということで、収益としては全体としては多少、対前年比マイナスなんですけれども、こちらの材料関係では、このSPDを導入することによって対前年比大きな削減効果が見込めるということで今年度の予算というような形になっております。

ですから、単純に人の減だけではお答えできない部分がございます。

以上でございます。

○委員長（日下昭治） 高木委員。

○委員（高木武雄） 非常にわかりにくい答弁で……。我々、単純でいいんですよ。前年、派遣で8億2,000万円ですか、さっき払ったと。今度、3部門やると8億8,000万円ということで6,000万円近く増えた。別に増えたっていいんですよ。そのときに委託料で、こういう業務と業務が入ったからこうなった、そういうふうに行ってもらえればいいんですよ。それがどうか流れがわからないと、派遣から新しい業務に変えたときにどっちが得なのか。得をすると言ってしまうは悪いかもしれないけれども、どっちが安上がりなのか、それをちょっと知りたかったもので。だから、別に委託料の部分は、今度こういう事業をやったからこの部分はこれだけ増えた、それはいいのですけれども、そういう面で単純に比較できる方法はないのかね。その辺、お願いします。

○委員長（日下昭治） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院事務部長。

○病院事務部長（伊藤敬典） その辺は、今ここで打ち合わせをして数字を出したいと思しますので、休憩をとっていただいてよろしいでしょうか。

○委員長（日下昭治） しばらく休憩をいたします。

45分まで休憩します。

休憩 午前10時36分

再開 午前10時47分

○委員長（日下昭治） 休憩前に引き続き会議を開きます。

病院事務部長。

○病院事務部長（伊藤敬典） 大変失礼をして、申し訳ございませんでした。

私のほうから総括的にお答えをしたいと思います。

現在、今いる派遣職員は125名です。これを三つの分野に分けていくわけでありまして。これについてかかっている経費は、今3億2,000万円です。125人で3億2,000万円の経費がかかっております。これを来年度からは三つの分野に分けていきます。

まず一つは委託の部分であります。これは人数は7人。内容的には調理の配膳業務であり

ますが、これにかかる経費が9,600万円を見込んでおります。

それから二つ目に臨時職員に切りかえる部分であります、これはまだ数が確定をしておりませんが、大体55人程度ということを見込んでおりまして、費用については1億3,000万円の費用を見込んでおります。

それから三つ目に派遣を継続する業務であります。これについては63人を継続することにしておりまして、かかる費用については1億8,000万円ということを見込んでおります。ただ、この継続の中には新規の業務を20人分見込んでおります。内容的には医師の事務補助、よく医療クラークと言ってありますが、医師の事務を補助する仕事として20人分の新規のものを見込んでおりまして、この部分にかかる経費がうち6,000万円であります。ですから、先ほど継続の中で1億8,000万円と申し上げましたけれども、このうち数は20人、経費については6,000万円が新規の部分でございます。全部足しますと来年度、従前の派遣にかかるもので振り変わるものが4億600万円ということで、当初の3億2,000万円からすれば少し上がっておりますけれども、このうち6,000万円は新規分だということでございます。

以上です。

○委員長（日下昭治） 高木委員。

○委員（高木武雄） すばらしい説明、ありがとうございました。

いずれにしましても、一番心配しているのは、経費が上がる、下がるも心配しているんですけれども、法に触れるような業務体系、これを続けることはできないんですよ。そうすれば、それにかわってスリムといいますか、順法的な業務をやっていかなければならない。そうした場合の経費がどれだけ上がるかを知りたかったし、それを必要経費として当然必要なものですから、これはそれとしていいんですけれども、ただ、まだ派遣のことも残っておりますので、派遣のものとこの臨時、これからもこういうものが残っていくと思うんですけれども、これを早急に改善されて、合法というか、違法ではないんですけれども、どこからも後ろ指さされないような体系にしていきたいと思えます。

以上です。

○委員長（日下昭治） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院事務部長。

○病院事務部長（伊藤敬典） まず、派遣を受けることができる業務については、これは派遣を続けていくということでありまして。これは、そのほうが正職員として抱えるよりも安いということがありますので、その部分については、今後とも派遣を継続して受けていくという

ことであります。

問題は、臨時職員として採用し直すという業務であります。看護助手とか、介護助手であります。今大体55人から60人程度を臨時職員として雇い直す考えでおりますけれども、これについては1年間は、半年まず臨時的任用をして、もう一回更新ができますので、1年間は雇えるわけでありまして。問題は、その後をどうするかであります。ただ、その業務についてはどうしても病院がしなければいけない業務なものですから、問題は7対1看護との関係があって、7対1のほうがあればこの業務は少なくなってくるんでありますけれども、その辺の兼ね合いで、必要なものは今後は正職員化も含めて、この1年のうちに検討していかなくちゃいけないと考えております。

以上です。

○委員長（日下昭治） よろしいでしょうか。

ほかに何か委員のほう……。

林一哉委員。

○委員（林 一哉） 私もちよっと見てたまげたんですけれども、3ページの介護老人保健施設、シルバーケアセンターですよね。それと、養護のほうは黒なんだけれども、特別養護老人ホーム、これが収入と支出がありますけれども、この2か所が赤字なんです。私もちよっと気がつきませんでしたけれども、これはどのようなあれでしょうか。

それで前々ね、私も長く病院関係の議員をやっていますけれども、前々は結構純益が出ていて積み立てをやっていたんですけれども、いつごろからこういうふうな……、これは民間であったならば本当にやっていけませんよ、赤字で。だから、どのような状況だか、これについての説明をいただきたいと思えます。

○委員長（日下昭治） 林一哉委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） 今の委員から指摘のあった点について、一番大きな要因というのは、やはり人件費でございます。

病院と附属施設というのは一体で動いている中で、例えば人件費が高給なのをもらっている方がそちらに移ったりすると、そこで費用負担が結構大きくなります。そういった中で、この施設単位で見ますとやはり減収という形になります。

それからもう一つは、市からの補助金というか、繰入金なんですけれども、そういったものも一部見直し等があって、今までもらえていたのが停止とか、そういったのもございまし

て、それは金額的には幾らでもないんですけども、一番大きな要因としては人件費ということで、これが一番大きな要因になっております。

以上です。

○委員長（日下昭治） 林一哉委員。

○委員（林 一哉） 今、人件費というようなことで言っていますけれども、今の養護と特養、こっちのほうの施設長というのは、たしかドクターがやっていると思いますけれども、それと、シルバーケアセンター、介護老人保健施設のほうも、こっちのほうはドクターの関係はどうなっていますか。わかる範囲で結構ですから、お願いします。

○委員長（日下昭治） 林一哉委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） 施設長という形でドクターが1人ございまして、そちらは人物は1人なんですけれども、一応二つの施設を兼務するような形でおります。ただし、給料の分は、こちらの片方でしか天引きしていないという形です。ですから、片方は比較的黒になって、片方は赤というような形になっています。

本当は施設の度合いによって案分であればよろしいんでしょうけれども、現状はそういう形の事実になっています。

○委員長（日下昭治） 林一哉委員。

○委員（林 一哉） ドクターがどれだけもらっているかわかりませんが、ドクターじゃなくても施設長というのは、職員で施設長になれないんですか。これは何とかこれから検討していただきたいということをお願いしておきます。

○委員長（日下昭治） 病院事務部長。

○病院事務部長（伊藤敬典） 施設長については検討であります。現在はドクターが施設長になっているわけでありまして。その辺のところはドクターじゃない人でいいかどうかについては、まだ今後検討ということで検討させていただきたいと思っております。

それから、先ほど人件費というお話をしましたけれども、これは普通、私も確たることは今手元に資料はないんですが、例えば、平成19年の9月から、個々の名前を言っても申しわけありませんが、当時の事務次長が副施設長で移ったことがございます。そういったことが人件費の中に反映している一つの要素にはなっていると思っております。これは特別養護老人ホームの関係ですね。

それで、当時は老人ホームにいた方が今度はシルバーに行ったということもありますけれ

ども……

(発言する人あり)

○病院事務部長(伊藤敬典) その辺の副施設長の人事に絡んで少し途中から人件費が増えたということはあると思います。

○委員長(日下昭治) よろしいでしょうか。

ほかに委員の質疑はございませんでしょうか。

(発言する人なし)

○委員長(日下昭治) ただいま神子功議員より発言の申し出がございました。

おはかりいたします。会議規則第110条の規定により神子功議員の発言を許可することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(日下昭治) ご異議ないようでございますので、神子功議員の発言を許可することと決定しました。

神子功議員の発言を許可します。

○議員(神子 功) ご配慮ありがとうございます。それでは、ご質疑申し上げます。委員外議員の質問ということでございますので、手短かにやらさせていただきます。

本会議、一般質問でも議論させていただきましたが、今も派遣の関係でご質疑がございました。平成21年度につきましては、派遣の内容について、さらに委託するもの、そして、臨時職員として迎えるもの、さらには継続して委託をするものということでただいまご説明がありました。

そうしますと、臨時については採用試験ということがあると思いますけれども、これについては本会議でも説明をいただきましたが、一つには半年間、さらに延長で1年間。この臨時の就業規定を見ますと、有給休暇が2年、3年、4年、5年云々ということで、日数が増えるような別表が掲げられています。これを見ることによると、法では1年になっていますけれども、これは継続してあった場合にこれを対応するというふうに判断ができるわけですね。そういったことが、臨時にすることによって1年だけれどもまだ置くことになっているような判断ができる規定になっているということが一つ。

それから、そのまま派遣で残すということになりますと、これまで議論がありましたように、契約をどうするかという問題がありますね。要するに、随意契約なのか、入札によるものなのか。さらに、新しいこととしてSPDの導入ということもありますから、それらを含

めて、随意契約ということでこれまで3年前あるいは数年前までやってきたことが明確になってくるということが平成21年度にあらわれます。

そこで、インターネットで3月2日付で事業管理者の院長が一般競争入札の公示、公告ということで、二つの派遣業務委託、その1、その2ということで、これが一般に入札に付すということで出されております。

ここに(1)から(7)までの入札の参加資格というのがありますが、ここでは(4)においては、一般労働者派遣事業の許可を受けている者、または特定労働者派遣事業の届け出を行っている者ということがありますが、5番目では、過去3年間に一つの公立または公的医療機関において医療事務作業補助者、看護助手、財務契約維持等の事務業務の従事者で計20名以上の労働者派遣を行った契約実績を有する者というのが(1)の、その他の中にあります。

その2では同様な内容が、これは今度は過去3年でおおむね30名以上の労働派遣を行った者という実績がうたわれております。

これを考えますと、広く公正公平に、しかも公的な病院の中で広くなるべく協力してもらおうということからすると狭き門になるのではないかなど。そうすると、偏った入札にならないかなどというふうなことが懸念されます。地元県内でもいろいろありますけれども、数限りない、本当に狭き門にならないかなどというふうに思うことがこれでわかるんですけれども、そういったことを21年については委託から臨時で採用される者、それから委託においてそのまま継続する者、さらに委託から派遣で残る者、これには契約がついて回るわけですね。

そういったことで、新たに今、再整備事業をして、これから3年後にはもっともっと大変になるような状況の中で協力をしていただく業者の方々にもっと広くやるということが本来ではないかなどというふうに思うのですが、要はその辺の兼ね合いですね。この辺について大きな意味でどう考えてこのようになったのかどうか。その辺を含めてご回答をいただきたいと思います。

○委員長(日下昭治) ただいまの神子功議員の質疑に対して答弁を求めます。

病院事務部長。

○病院事務部長(伊藤敬典) それでは、まず私のほうからかつての臨時職員について別表があつて、有給休暇が何年いれば何日というふうな規定があつたけれどもというふうなお話ありがとうございました。

これは、実態とすればどこの病院でも臨時職員が1年を超えて働いているという実態は実

際にはあるわけですね。当時、この別表の規定というのも、実際にそういう方が多くいらしたものですから、それにあわせて年休を付与するためにそういう規定になっていたと思います。

ただ、この4月から新たに採用する臨時職員については、今考えているのは法の範囲を超えない、つまり1年以内の任用ということを考えていますので、その別表については場合によっては削除していく、改正をしていくということになるかと思えます。それについては今後の21年度以内にしっかり検討してやっていくことだというふうに、別表の改正も含めて、それから臨時職員のあり方、処遇も含めて、21年度中には検討していきたい。そして、1年をまたぐことがないようにしていきたいと考えております。

それから、2点目の3月2日に派遣についての入札公告を行いました。それについて実績を求めているということについては、契約室長のほうからお答えをさせていただきます。

○委員長（日下昭治） 病院契約室長。

○病院契約室長（太田信春） 神子議員の質問についてお答えします。

確かに、一般競争入札につきましては、基本的にはだれでも自由に競争に参加する機会が与えられるべきものであろうと考えております。

しかし、自由に競争に参加できるというものの、やはり契約の履行に必要な能力を有するものでなければ、やはり発注者としてはちょっといかなものかと考えております。ですから、新本館建設工事のときにもそれなりの施工実績、それを求めさせてもらったところがございます。

地方自治法では、入札の関係で制限能力者の入札参加を制限する。これは指名停止とか、禁治産者とか、そういう形だと思います。さらに、必要に応じて契約の種類及び金額に応じ、その実績を要件とする資格を定めることができるとされております。これらを踏まえまして、新規の業務であります医療事務補助、これはまさしく本当に新規でございますので、そういう実績がある業者にぜひお願いしたいというところもございまして、その2の業務につきましても、それなりの病院での実績を求めたいという形で考えて、今回、実績を求めさせてもらったところです。

以上です。

○委員長（日下昭治） 神子功議員。

○議員（神子 功） 今の病院契約室長のほうのご答弁ですけれども、そうしますと、今現在、随意契約で入っている方いますよね、何社か。この方は一応経験を積んだわけですよね。初

めはどうだったのですか。要は、随意契約をするときにはどうだったんですか。経験があったんですか、なかったんですか。

○委員長（日下昭治） 神子功議員の質疑に対して答弁を求めます。

病院契約室長。

○病院契約室長（太田信春） 前回、3年前のことは、私も詳しくは存じなくて申しわけございません。前回は随意契約ということで、多分随意契約の場合ですと発注者のほうが、ここはできるだろうという判断をして見積もりを徴して契約に至ったと思います。

今回につきましては、病院の競争入札参加資格者名簿に人材派遣業務の業種登録をされている業者は20社を超える業者がございます。その業者の中からそういう実績のある業者にぜひ入札に参加していただきたいと。また、その実績に基づいて病院の業務をしっかりとといいますか、私どもで協力してやっていただきたいという形で施工実績をつけさせてもらったものです。

よろしくをお願いします。

○委員長（日下昭治） 神子功議員。

○議員（神子 功） 3年前の随意契約、今回、一般競争入札ということですがけれども、前の方々によって経験がなかったものが経験を積んだというふうになりますよね、どこの方が受けたかわかりませんが。たまたまそういった機会を得られたから実績ができたということになりますでしょう。

先ほど私が言いましたように、（4）では一般労働派遣事業の許可を受けている者、あるいは特定労働者の派遣事業の届け出を行っている者というのは、それぞれ病院ではなくても人を送り出しているということについては経験があるわけですよね。

あとは賃金の関係でどうなのかということと、それから実際にその方々が経験を積んでいるかという判断があるために、今回は病院としては経験がある者というふうにさらにうたったと思うんですね。ですから、ある意味では経験をさせていただくということについても、これは大事なことはないかなというふうに思ったものですから、これを見たときにどうかということを申し上げたことで、その辺はどうでしょうか。

○委員長（日下昭治） 一応、議案の審査の関係がございます。これを最後の答弁とさせていただきます。

病院事務部長。

○病院事務部長（伊藤敬典） 前回は、これは見積もり合わせによつての随意契約ということ

にしたわけであります。今回、一般競争入札に切りかえましたが、なぜその実績が必要かということで今、神子議員からのご質問であります。

これは、やはり病院として、来た方にはある一定の品質できちんとやっていただきたい。そのときには、どうしても一定の経験、実績がないと相手に対する信頼性という面でやっぱり問題が出てくるのではないかということで、一定の公立病院についての派遣実績を求めさせていただいたというのが今回の入札についての実績を求めた理由であります。

○委員長（日下昭治） 以上で、議案第9号につきましての質疑を終わりたいと思います。

続きまして、議案第10号について、国民宿舎より補足して説明がありましたらお願いいたします。

国民宿舎支配人。

○国民宿舎支配人（野口國男） それでは、国民宿舎のほうをお願いいたします。

補足説明につきましては、本会議で説明したとおりでございます。

平成21年度につきましては、リニューアルオープンをした後の本格稼働ということで、第1年目になります。ご説明いたしました業務の予定量、宿泊につきましては1万6,000人、休憩につきましては5,000人ということで目標を立てさせていただきました。この目標を確保できるよう全力で取り組んでまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長（日下昭治） 国民宿舎の説明は終わりました。

議案第10号について、質疑がありましたらお願いいたします。

向後和夫委員。

○委員（向後和夫） 1点だけ質問させていただきます。

休憩のほうは1日当たり13人という予定になっております。今、グランドオープンからバイキングを今度始めて、毎週、金、土、日とバイキングをやっていますね。グランドオープンから現在に至る、あの当時は500人ぐらい来ただろうと思うのですね。今現在でも3日間やると大体270人から280人ぐらい来ていると思うのですね。そういう面では、予定が休憩のほうは大体13人というのは非常に少ない数字だと思うのですが、支配人、その辺をお願いします。

○委員長（日下昭治） 向後委員の質疑に対し、答弁を求めます。

国民宿舎支配人。

○国民宿舎支配人（野口國男） 休憩というとらえ方でもう一度説明をさせていただきたいと
思います。

私どもの休憩のとらえ方が、昼食につきましては除いております。いわゆる団体で使っ
ていただいた方、単価的には1人1,500円以上を使っていただいて、しかも団体で使ってい
ただくということを前提にしてこの休憩をとらえておりますので、現在、実施しておりますバ
イキング、それと仮にレストランでランチを1,500円以上使っていただいても、これは休憩
には入れないということでございます。

それはそういう形で進めておりますけれども、13人では若干少ないというご指摘ござい
ます。確かに、365日で割りますと13人ということですが、団体での会食が非常に少
なくなってきております。これは国民宿舎だけ、食彩の宿だけではございません。全国的な
統計からも外食産業がこの時期かなり衰退してきているというような前提のもとに、本来な
らばもう少し上げた数字でお示ししたかったんですけれども、ちょっと消極的と言われても
仕方がないんですけれども、当面5,000人ということで予定をさせていただいたところで
ございます。

しかし、先月、東京のほうの大手のバス会社等々の営業にも行ってまいりました。いい感
触で折衝ができたというふうに思っております。今後、そういった販売促進でリニューアル
期間中、経営改善に培ったものをどんどんこれから発揮をしていきたいというふうに思っ
ておりますので、どうぞ、よろしく申し上げます。

○委員長（日下昭治） ほかに質疑ございませんでしょうか。

高木委員。

○委員（高木武雄） 今の向後委員の関連質問になるかと思えます。

1日43人の宿泊を予定しているということでございますけれども、フルオープンしてから
わかる範囲での1日平均、実績としてどのくらい上がっているか、わかればお願いします。

○委員長（日下昭治） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

国民宿舎支配人。

○国民宿舎支配人（野口國男） フルオープンが12月の10日でございます。1日あたりは、ち
よっと計算機をあてなければいけませんけれども、12月から月別に申し上げます。

12月につきましては、12月10日からですけれども、ちょうど1,000人の実績がございます。
これは宿泊でございます。それと1月の実績ですけれども1,133人、2月が856人というこ
とでございます。それと、これは参考ですけれども、3月につきましては、3月の8日現在で

1,384人という予定が、もう昨年以上の予約が入っております。

以上です。

○委員長（日下昭治） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（日下昭治） 特にないようですので、議案第10号の質疑を終わります。

続いて、議案第16号について、水道課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
水道課長。

○水道課長（堀川茂博） それでは、補足させていただきたいと思います。

事前に配布の公的資金補償金免除繰上償還に係る平成20年度公営企業経営健全化計画書をご覧いただきたいと思います。

1枚めくっていただきまして、要約した資料を添付してございますのでご覧いただきたい
と思います。「公的資金補償金免除繰上償還に係る平成20年度公営企業経営健全化計画の概
要について」の説明をさせていただきます。

「平成20・21年度に実施する「公的資金補償金免除繰上償還」にあたり、平成19年度の公
営企業経営健全化計画の内容に追加して、総務大臣並びに財務大臣に対し申請したところ、
平成20年11月に承認を受けましたので報告いたします。「公的資金補償金免除繰上償還」は、
公的資金を繰上償還するにあたり提出する「公営企業経営健全化計画」の内容が、総務大臣
並びに財務大臣から「当該地方公共団体の行財政改革に資するものであると認められる場
合」において承認され、平成19年度から平成21年度の3か年度に限り、「補償金なし」で公
的資金の繰上償還及び借換ができるものです。本市におきましては、既に、総務大臣並びに
財務大臣から承認を受け、平成19年度に公営企業金融公庫資金2,435万4,491円の繰上償還並
びに2,420万円の借換を実施したところでありますが、平成20・21年度に償還予定の年利
5%以上の「旧資金運用部資金の対象残債分」8億8,691万4,075円に対する繰上償還及び8
億8,400万円の借換の承認を追加して受けましたので報告するものです。」

下の表をご覧いただきたいと思います。一番右に軽減される利息が記載してございます。
平成19年度が111万947円、これは確定でございます。平成20年度が1億3,631万911円、これ
は見込みになります。それから、平成21年度が1,855万3,339円、これは見込みでございます。
一番下の欄に合計がございまして、繰上償還の額が9億1,126万8,566円。それから、一番右の
欄になりますけれども、軽減される利息が1億5,597万5,197円、これは見込みとなっております。
欄外に、「軽減される利子について、平成20、21年度は借入利率が未定のため2.5%

で仮算定」したものでございます。

次に、先ほどの議案第8号の関連の高木委員のご質問でお答えしなかった2点について、お答え申し上げます。

1点目の企業債残高、これにつきましては、借り換え後の見込み額ということで、補正予算書の7ページをご覧くださいと思います。

7ページに資本金、それから借入資本金、企業債というところで、右側の欄に24億5,369万8,000円というのがございます。これが企業債の残高ということになります。

続きまして、未償却残高、これにつきましては6ページをお開きいただきたいと思います。固定負債の(1)に企業債というのがございます。ここに944万4,000円、これは振興資金なんですけれども、これは旧干潟町分でございます。それから、5ページをお開きいただきたいと思います。5ページに有形固定資産合計というのがございます。右側に59億9,724万円というのがございます。これらを両方足したものが未償却の残高ということになります。

以上でございます。よろしく願いいたします。

○委員長（日下昭治） 水道課の説明は終わりました。

議案第16号について、質疑がありましたらお願いいたします。

高木委員。

○委員（高木武雄） 私、聞きたかったのはこの構築物ところでの減価償却がかなり進んでいて、残債が半分残っているという形で、建物の場合はほとんどない。そういう中で、この構築物というのは水道管が多いんですか。そして、その水道管は耐用年数がどのくらいあるのか。これは今半分だから、あと半分あるというような見方はわかるんですけれども、その辺、わかりましたらお願いします。

○委員長（日下昭治） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（堀川茂博） 高木委員のおっしゃるとおりでございます。水道の配水管が特に金額が多くなっております。

耐用年数につきましては、40年ということでございます。以前は25年でやっておりましたけれども、法律改正によりまして40年ということで延期されたものでございます。

よろしく願いいたします。

○委員長（日下昭治） 高木委員。

○委員（高木武雄） そうしますと、この40年というのは今現在、何年経過しているか。数字

から見れば半分経過しているように見えるんですけども。

○委員長（日下昭治） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（堀川茂博） 約30年経過しております。

○委員長（日下昭治） 高木委員。

○委員（高木武雄） それではあと10年もすると寿命が尽きるという考え、それは減価償却の期間が過ぎててもまだ十分使えるものもあると思いますけれども、数字上はあと10年したらまたこういう工事が必要になるということなんでしょうか。

○委員長（日下昭治） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（堀川茂博） 耐用年数を経過しても、例えば、県営水道の場合ですとはるかに耐用年数を超えて配水管を使用しております。隣の銚子市につきましても同様でございます。歴史のある水道事業体によっては、既に40年を経過して使用している配水管はたくさんございます。

ただ、耐用年数は適当に設定されているものではございませんので、今後、当然耐用年数を視野に入れまして適切に、例えばループ化とか、あるいは新設で、今回旭中央病院の関係で配水管を布設しましたけれども、新規に行う特別のようなものについては耐震管、NS管と呼んでおりますけれども、耐震に強い配水管を布設していく。あるいは、寿命も当然ありますので、予算でも説明したとおり、これから平成21年度に作成する水道ビジョン等でも、それらを視野に入れて適正な維持管理に努めたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（日下昭治） ほかにございませんか。

（発言する人なし）

○委員長（日下昭治） 特にないようですので、議案第16号の質疑を終わります。

続いて、議案第17号について、病院より補足して説明がありましたらお願いいたします。

病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） それでは、議案第17号、平成20年度旭市病院事業会計補正予算（第2号）について、再度補足説明を申し上げます。

10ページの実施計画内訳書をお開きください。

資本的収入のうち1款1項1目1節企業債についてであります。これは再整備事業にかか

る企業債借入額を減額するものであります。

また、1款2項1目1節補助金についてであります。これは再整備事業にかかる補助金、千葉県公的医療機関整備事業の増額を予定したものでございます。

次に、11ページをお開きください。

資本的支出のうち1款1項1目1節工事費についてであります。これは、建築工事等の契約が決定したことにより減額を予定したものです。

簡単ではございますが、以上でございます。

○委員長（日下昭治） 病院の説明は終わりました。

議案第17号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（日下昭治） 特にないようですので、議案第17号の質疑を終わります。

続いて、議案第18号について、国民宿舎より補足して説明がありましたらお願いします。

国民宿舎支配人。

○国民宿舎支配人（野口國男） それでは、国民宿舎のほう、補正予算ということでございます。

12月にも補正をお願いいたしましたけれども、今回の補正につきましては12月の末をとらえましてランドオープン後、先ほど説明をいたしましたけれども、宿泊、休憩ともに好調な予約ということで提案をさせていただくものでございます。今回は、上方修正ということでございます。それと、この好調な予約ですけれども、販売促進をかけておりますので、この効果が次第に出てきたものと思っております。

つきましては、業務の予定量3,000人を5,400人ということで、これは休憩ですけれども、いわゆる1,500円以上使っていただく方の団体の利用でございますけれども、3,000人だったものを2,400人増やしまして5,400人ということで予定量を増やすものでございます。

収入につきましては、1,609万2,000円ということで上方の追加をするものでございます。特に、食事料につきましては1,007万6,000円の追加を予定しております。

一方、これに対します費用のほうですけれども、1,195万円ということで、人件費を含みます業務の増加に伴う費用でございます。

したがって、利益のほうですけれども、今回は414万2,000円という利益を見込んでおります。年度累計につきましては、12月までご説明いたしました4,177万5,000円の損失経営というご説明をいたしましたけれども、今回の補正によりまして3,763万3,000円まで押し上

げるといふものでございます。

どうぞ、よろしくお願ひいたします。

○委員長（日下昭治） 国民宿舎の説明は終わりました。

議案第18号について、質疑がありましたらお願ひいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（日下昭治） 特にないようですので、議案第18号の質疑を終わります。

続いて、議案第26号について、国民宿舎より補足して説明がありましたらお願ひします。

国民宿舎支配人。

○国民宿舎支配人（野口國男） 今回の条例改正ですけれども、既存の条例でございます設置及び管理に関する条例第3条に定めました事業の規模でございます。これが平成19年度、20年度で実施いたしました全館の改修工事によりまして部屋数が変わっておりますので、この条例を修正するというところでございます。

なお、旅館業法に定めます事業の規模、これが大幅な変更にあつたものですから、同法に基づきまして旅館業の営業許可申請、これにつきましても千葉県知事に改めて届け出をいたしまして、許可を得ているものでございます。

どうぞ、よろしくお願ひいたします。

○委員長（日下昭治） 国民宿舎の説明は終わりました。

議案第26号について、質疑がありましたらお願ひいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（日下昭治） 特にないようですので、議案第26号の質疑を終わります。

以上で、付託議案についての質疑は終わりました。

議案の採決

○委員長（日下昭治） これより討論を省略して、議案の採決を行います。

議案第8号、平成21年度旭市水道事業会計予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（日下昭治） 全員賛成。

よって、議案第8号は原案のとおり可決されました。

議案第9号、平成21年度旭市病院事業会計予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(日下昭治) 全員賛成。

よって、議案第9号は原案のとおり可決されました。

議案第10号、平成21年度旭市国民宿舎事業会計予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(日下昭治) 全員賛成。

よって、議案第10号は原案のとおり可決されました。

議案第16号、平成20年度旭市水道事業会計補正予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(日下昭治) 全員賛成。

よって、議案第16号は原案のとおり可決されました。

議案第17号、平成20年度旭市病院事業会計補正予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(日下昭治) 全員賛成。

よって、議案第17号は原案のとおり可決されました。

議案第18号、平成20年度旭市国民宿舎事業会計補正予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(日下昭治) 全員賛成。

よって、議案第18号は原案のとおり可決されました。

議案第26号、旭市国民宿舎事業の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(日下昭治) 全員賛成。

よって、議案第26号は原案のとおり可決されました。

以上で本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(日下昭治) ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

所管事項の報告

○委員長(日下昭治) 次に、所管事項の報告に入ります。

報告のある所管課は随時報告をしてください。

(発言する人なし)

○委員長(日下昭治) 特にないようでございますので、所管事項の報告を終わります。

○委員長(日下昭治) それでは、以上をもちまして、本委員会を閉会いたします。

大変ご苦勞さまでした。

閉会 午前11時35分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会公営企業常任委員会委員長 日 下 昭 治